

橫濱新報

8883

1

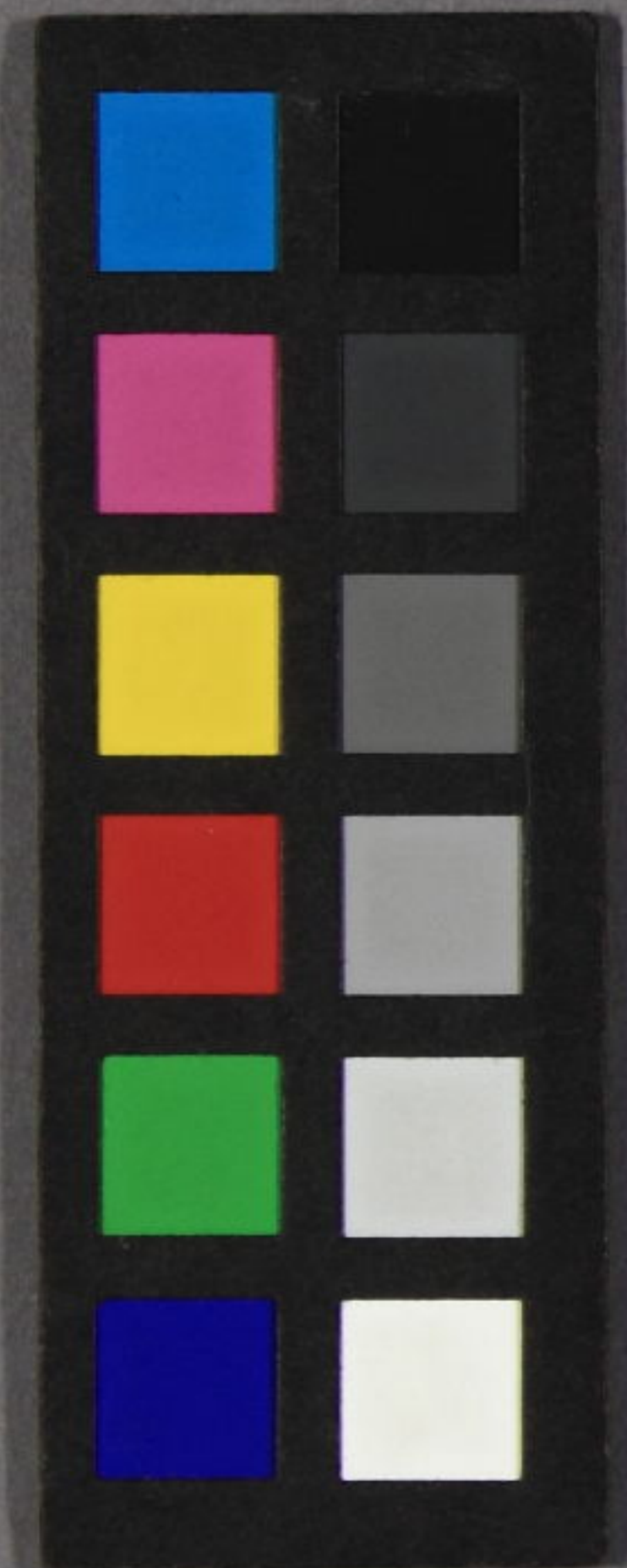
り  
浮葉

第壹帙

定價壹分

93

Vanreed





蘇齋條辭

文庫10  
7388  
1

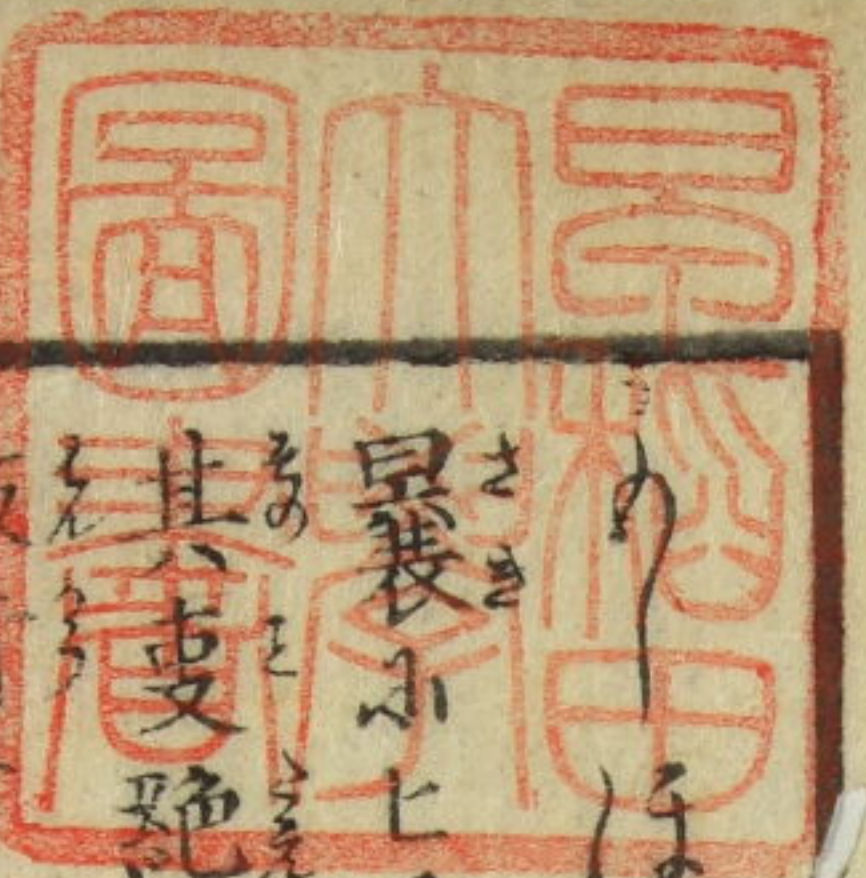
第一書料

ほふき第一快

22  
1111111111

実質壹必

慶應四年戊辰閏四月十一日



其變絶つる一昨年正月我友人ベリイ萬國新聞紙を  
 板行せしむる也第十篇迄出板してやめぬ余深くこの世を  
 考ふておのれを新聞紙の有益なるものありて今世界中  
 文明の國ありては新聞紙のありて然る日本もその變  
 する所行つては益するゆゑ新聞紙の世に益ある事と  
 考ふるなりとこれを篇集する人のところを學者ぶつてむ  
 支那文字中その多くを文を用ひし事と且ハ出板の  
 なりて時あるは乃めづる一考ぬ評せしむる事とこふ

まけ



成るべし余が此度の新聞紙は日本國內の時々のさうさうの勿論  
アメリカ。フランス。イギリス。支那の上海香港より來る新報は即目  
翻譯して出さるべし且月の内十度の餘も出板をべしとせしむる  
諸色の相場をばしめ世間の奇事珍談あるを記事をかき  
のせる事ありしやと確實なる説を探りてあて決して浮説を  
のせむこといねばしむる諸君のあつて此新報を買ひしるべき  
○アメリカのワシントン。イギリスのロンドン。フランスのハリス其外  
諸國の綴系華なる地ある新聞紙を出板せる處甚多し  
日々出板せる家もつり二日め三日めに出版せるもありて一年  
内出版の數幾億万といふとあるなるるなり近來開け

たるハワイあては五六年前あては島人大抵文字を考ふる  
しに近日は追々に進んで人々文明の進み毎朝新聞紙を出  
板せる事七千枚に至るといふ支那は近來香港上海にて  
漢文の新報を板行す大抵毎月二万四千枚を賣出まるといふ  
是は皆新聞紙を買ふの人前にて週年の價金を板元へ渡置て  
出板する新聞紙館より考ふる文明の國綴系華の地あり如此新聞  
紙のさうに流行するところ千里の外奇談珍説坐るはして見聞し  
門を不出して諸方の物價を考ふる人の智識を考ふる心志をたのしむる又ハ  
高賈の便利を得るると其益ある事甚ありがさあり余是故日本  
めも新聞紙の盛は流行せん事を願ふ也

九十三番  
ウエンリート



昨日信州より帰りける商人の名ありしに四月廿二日北部の  
會津の兵水戸、素名の兵をひきあて信州の松代を以て  
かきと城主さうをどこのけあひあひびの三百年來徳川將  
軍に屬し其恩を蒙りて此度俄に南方の臣  
下を屬せし何事ぞやありふ南方の天子を狭で權威を  
振ふおそきとあらざりてをかくるをあらとめて北部の力  
を合せを舊領安堵たるべしめさるる徳川家よりあて  
あきたる御墨附をかくせとて嚴しくけあひ居りしを  
現在不見聞しとさるるなりとを其後つらなりしを北部  
の兵卒のいふ所の松代をうまく説伏たるを夫より尾張へ

兵をさしむけ勢に乗じて京地の攻めんと志也とぞ猶  
委しきと求めり此出まへ會津より三越を説  
伏し皆此策を用ゐるとなり叔其人をすぬの關を通  
しがあちちとめりける者四人をさきこりて關守ふむらひと  
いふやうにねる美濃の國大垣のりのたるが廿二日に宇都宮  
の軍ふらちまけて馬物具をもさだられ辛うとこれぬで  
あげのびてゆいで此關を通過させたる切手をばりあゆむと  
こくそひあまうて居り白紙をぬぎ一枚を着て上ふとごと  
いふのを引あちひするもありしとぞ  
○下總のらふこぎの原の屯集せし北部の兵は皆江戸に



浪人あり植村某といふ人を使者として四月廿七日南方の陣中へかけあひの遺はせしに南軍より鉄砲めて打殺しつゝを引続て両軍より砲發あはひつゝあひ合戦となりしが南方の兵敗走のより風聞あり南兵の彦根藤堂ありて

閏四月三日舟橋合戦之事

徳川家旗下の士江戸をたらしき安房上總の邊へ集居するの如何の評議を決したるより四月廿二日のころ五百人づりの勢めて日光山へところをてあしけり途中舟橋駅へ屯居する上方勢より兼く八幡市川邊を固居し使者を以て速降参せしむべきなりとかけあひあひしに關

東方より衆議の上返答可及の間兩三日は待下さるべしといひのこしし閏四月朔日衆議一決の間いよく一戦のすまき趣使者を以ていひ入るに上方勢より一兩日ひのこしし出しつゝ同日の曉天ふ關東方先手下總佐倉の城主堀田備中守上総久留里の城主黒田豊前守并徳川旗下の人々惣勢三千餘人を押し出さる山よせの小高處より志きり大砲を打ちけ関をぶつとあげてあしよせたりし上方勢はいまま夜中の夢めて眠り居る處をまひひとさへもさへ得に備前藤堂をもちめ我さねめとめけ出しちりくひありて敗走しつゝたればつづき一時むりめて吏をさるりぬ關東



方手疵てまふをかひひ者只三人めこ上方勢死人凡三百八十人とぞ  
同日四ツ時しごろ堀田の兵士なりとそ五十人むろりある農家のうかに  
立ふたつつくく濁ろくろ水あても茶あてもあまひられらこあを  
け色いろづづてちをせんドてまぬぬせなる各血刀をひひッッささげげ鉄砲てつぱうを  
めち中ちゆうの切首きりくびをたたぐぐああるも有ありかあひくくそそああるるて半  
時じむろりも休息きゆうしト居ゐるふ市川いちがわめく只今合戦最中さいちゆうなりと  
きて又舟橋ふねはしめもたたううひありとそまえて黒烟くろけんささるるふふちちののほり  
是こゝに打散うちちされらるる上方勢じやうほうふふてび人数にんずをままとめて押返おしかへたり  
とああののろろむむぞいいざざんん走はむむろろて一動いちどうして高名たかせんせんとぞいいととこ  
ままんで爰こゝを立出たちだ市川いちがわの方かたむむらられれとぞ是こゝに昨四日行徳けつしにちゆきとくの

さる方よりままははあある見聞けんぶんししる趣しゆを報来ほうらいままるる同日  
九ツ時くもも行徳ゆきとく居ゐるじ筑前黒田の兵三百人むろりああく  
八幡やまはたをささして操出そうしゅつししる勝敗しょうぱいののままつつののままびびどのどのああるる尚なほ又  
今朝の風聞けふあさのかぜききあある八幡やまはたの合戦がっせんあある上方勢じやうほうああるひひ敗走ばいそうしし松戸駅しょうと  
をささして落行らくぎやうししとぞ江戸えどよりも援兵えんぺいとして九州勢きゅうしゅうせい千七百人  
むろりもむろりひひけれれるる利根川とねがわのて多おほふ陣じんを取一人も川がわををささ  
ららず只關東勢かんとうせいと川がわを隔へてああるるああひひて居ゐるるよよ是こゝに深川邊ふかがわのへ  
のささるるものものすすれれの士し昨四日市川邊いちがわのへ追見物おひきものむむ往ゆりりがが歸かへりりままるる  
てりりののろろろろろろりり叔市川おせいちがわ舟橋ふねはし八幡やまはたの駅えき人ひと家や不残ふざんゆゆれれるるひ  
たりとああるる



○このたび王政復古のつぎ舊弊を一洗あせらるるの趣を聞  
つねにせよとせよと各人の士商どもに目と括ひ足をそぐそぐ  
新令のつらさをもちたてまつるなり定めて舊來の汚習を掃  
清し文明なる法律を下しよべし舊政府の法律の拘束  
かちして不便利なる吏のみを好んで何事にもたずかすく整  
吏を死せよとせよの風はこれより好吏時を得く  
みづらに暴威を振ひ種々の悪計を設て商賈をこまらせ以て  
自富の謀をあらせり此等の吏をたむべの至りあり早く此  
弊を一洗して公明正大なる古の王政を復しよべし萬事簡便  
ふしと差支なく貿易の出入日々に盛んふたすば萬國の士商

いつをひ來りて歲月を経ざるの富強の國とならん吏時立  
してま川べし  
戸部の裁判所を目安箱を出して農商どもに民間の疾苦を  
速訴へることをゆるしよべしとせよとせよその簡便なる法を  
貴びたまふことを知るべし  
阿片烟の禁のわけて外國との條約に乗せよとせよなれども今度  
まに嚴重の令を下しよべし我等の最敬服の堪えざる  
処なり阿片のあしめりのとら知りたるより日本あての斯嚴禁に  
たふるほどのあしき處を能知りたるものをもつてすくむべし此  
故に今とに其大畧を記せば阿片の天竺の産ぶる物めて



イギリス人これを買い求めて支那の諸港へ送りさぐくこゆ  
 毎年五万五千箱ぐらゐ一箱に付代洋銀五百枚左右ありこの  
 めの大毒物もこれと吸へば次第く精神をそとさへひ色  
 あせぬ力あたらふつおふたつあどをいするといふ言はれ  
 一度此物を吸ちどむればたうをいさるるつあさびめ  
 やめる時の必速ぬその毒ぬいつて死するとぞ夫故つたる  
 旅ぬそらあても推乃一行きを吸ふあり此物をもろが高直るが  
 りと相應の身代の人めても段々貧乏ぬありあど病入の  
 如くゆて十分ぬもてきかまらばされども一日阿片を吸つ  
 ぬ居ぬまば家財衣服を賣尽つ後ぬむすめをうて田ん

地も家も賣て一斤の烟となすりの支那人あいのらあるの  
 知らぬほどあり人を救ふ事を説たぬひし釋迦如來の  
 本國より人を害ぶ一國を滅ぼべき大毒物を生うて出さ事誠ま  
 阿片むべきあり或友人阿片烟の支那へ入津せし高を記し  
 たる帳面をあらへてに嘉慶元年より同治七年までの間の一億  
 二十七萬五千箱あり時々直段の高下ぬあれども此代洋銀幾億  
 万枚あるべし支那國ぬわが大金を出して是を買ふといふた  
 其物ぬたぬまも烟となすりのころるすたぬ其う人命を害ぶ  
 子孫を絶ぬいさるるありされば始めのちとい支那國にても  
 此吏をふせぬとめんとう種々心を勞らト嚴禁きんを立るとせし



このども一度むろまりー後ハ此のふやむとまり近來小島り  
てハ此禁<sup>きん</sup>ちのめみまらば高位の人とも又是を愛するともや  
本月四日のられがふイギリス公使パークス并ハサトウ浪華  
より出帆し同六日午後本港のり京撰のともるあご  
やうなるより種々新聞のれども此次の出はべり



西垣文庫

文庫 10

7388

1